

6-23 駿河湾の地質 Marine geology of the Suruga Bay

産業技術総合研究所
Geological Survey of Japan, AIST

駿河湾の地質は、その中心を南北に延びる駿河トラフを境として、伊豆半島側（東側）と静岡側（西側）で大きく異なる¹⁾。

伊豆側は主に火成岩類からなる基盤が、駿河トラフ底に向かって傾斜している。その斜面には、100-300 万年前に海面付近で形成されたと考えられる浸食平坦面とそれを覆う第四紀の地層が発達する。浸食面は西側に 2-3 度傾斜し、最大で約 1700m 沈降したと推定されている。このような急激な沈降と傾動運動にもかかわらず、浸食面上には顕著な断層は発達しない。

静岡側の斜面は、石花海海盆とその東側に発達する隆起帯である石花海に区分できる。石花海は変形した第四系からなる背斜構造である。その東側は駿河トラフに落ち込む急斜面になっており、著しく変形した堆積岩が露出する。石花海を構成する隆起帯は、断続的で雁行配列する背斜構造からなり、静岡市東部の久能山まで達する。石花海の北側で隆起帯の大きなギャップがあり、顕著な海底谷が、石花海海盆から駿河トラフに伸びている。石花海海盆は北北東-南南西に延びる海盆で長軸が約 30km、短軸は約 10km の規模を持つ。海盆は第四紀堆積物に覆われるが、石花海側ではそれら堆積物が大きく傾動隆起していることから、駿河トラフに沿った活発な隆起運動を示している。

地震と地質との関係

8 月 11 日の地震は石花海と石花海海盆の境界付近を震央として発生し、余震は北西側に延びている。この地震はスラブ内地震であることを考えると当然ではあるが、海底には余震分布に直接対応する活断層や褶曲は認められない。しかしながら、余震は石花海海盆の沈降量の大きい領域に沿って分布するように見える。

石花海海盆の周辺斜面には地滑り地形が発達し、地震時には地滑りが発生し、一部の津波の原因になった可能性がある。

(岡村行信)

1) 岡村行信・湯浅真人・倉本真一 (1999) 20 万分の 1 「駿河湾海底地質図及び説明書」, 海洋地質図シリーズ, no. 52, 産業技術総合研究所.

